

法人	社会福祉法人光朔会 オリμπア	報告者	常務理事 山口 幸
基本方針			
イエス・キリストによって示された愛を、すべての人々とともに分かち合い、神の栄光をあらわすために、誰もが夢や希望に満ちあふれ、「その人らしく」光輝いて暮らすことができる社会を実現する。			
運営方針			
1. 総合的な福祉活動の展開 2. 新しいケアへの転換 3. 福祉の啓発活動の展開 4. 地域、他団体との協力 5. キリスト教主義の福祉活動の展開 6. リーダーシップの確保と向上 7. 海外との交流 8. 健全な財政運営			
概要			
<p>法人創設より22年目となる2017年度は、社会福祉法人光朔会オリμπアにとって、新たな一步を踏み出す年である。少子高齢化の進行や、政治・経済状況の変化など、福祉を取り巻く環境が日々様変わりする中で、その時々ニーズに応じた事業展開・サービス提供をすることが求められている。そのためにも、柔軟な発想力と大胆な行動力を兼ね備え、オリμπアの理念の実践に貢献することができる人材を安定的に確保し、その育成に注力していきたい。また、我々の取り組みを多くの方に伝えるため、インターネットや新聞・雑誌等のメディアを活用したPR活動も積極的に行う。さらに、海外に目を向ければ、アジアの国々も急激な少子高齢化の道を歩み始めており、これまでの日本の経験やオリμπアの取り組みを伝えることにより、オリμπアの目指す「誰もがその人らしく輝いて暮らすことのできる社会づくり」に貢献をしていく。このように目まぐるしい変化を続ける社会状況に対応する為にも、常に新しいアイデアをアクションに移していくことで、新たな福祉のムーブメントを起こしていきたい。平坦な道のりではないが、常に初心を忘れることなく、新しいことにチャレンジし続けることができるオリμπアを目指す、新たな1年としたい。</p>			
事業計画			
<p>1. 総合的な福祉活動の展開 [多機能] : 高齢者事業部門・保育事業部門・社会事業部門・法人本部の働きを一層充実させ、オリμπアの目指す「小規模・多機能・地域密着」の総合的な福祉活動をさらに前進させる。</p> <p>2. 新しいケアへの転換 [小規模] : 従来の大規模・画一的なケアではなく、入居者・利用者・園児ひとりひとりがその人らしく輝くことができるように、家庭的な環境の中で小規模・個別的な新しいケアを実践する。</p> <p>3. 福祉の啓発活動の展開 [地域密着] : オリμπア福祉塾講座、高齢者と介護者の教室、認知症高齢者や発達障害児の理解を深めるための講演会を開催、あるいは講師として参加することにより、地域福祉の啓発に貢献する。</p> <p>4. 地域、他団体との協力 [ネットワーク構築・国際交流] : 日本聖公会・YMCA・各大学や大学院・ロータリークラブ行政・社会福祉協議会・医師会・自治会などとの協力関係を強化し、よりよい福祉活動につなげる。</p> <p>5. キリスト教主義の福祉活動の展開 [キリスト教社会福祉] : 各部門における毎朝の礼拝、職員礼拝の充実を図るとともに、クリスマス・イースター・ペンテコステなどのキリスト教行事を積極的に実施し、キリスト教の理解を深める。</p> <p>6. リーダーシップの確保と向上 [資質の向上] : 内部研修の実施および外部研修の受講より、職員・ボランティアの資質の向上に努める。また、実習生を積極的に受け入れることにより、次世代の福祉の担い手を育成する。</p> <p>7. 海外との交流 [国際活動] : リンネ大学(スウェーデン)との協働により、海外研修を実施する。また、香港・台湾・ベトナム・シンガポールなどのアジアの国々との連携を密にし、世界の福祉の情勢の分析および情報発信を行う。</p> <p>8. 健全な財政運営 [健全財政] : 収入の増加、支出の見直しを実施し、健全な財政運営に努める。</p>			

施設	特別養護老人ホームオリンピア	報告者	落 昌之
事業目標	1. 安定した財政基盤の確立を基により質の高いサービス提供を行う。 2. 幅広い分野に精通した人材育成と法人内外におけるリソースパーソンの発掘。 3. 多様化するニーズに応える新たなチャレンジ。		
概要			
<p>16年度は、部署によりその成績にばらつきがあった。これを一律に安定した実績に繋げていくためにも、各部署で協働し「一つのオリンピア」として事業を展開していく。それぞれの持ち味を活かし、またそれぞれの足らずを補い合いながら、21年目の新たな一步を踏み出していく。さらに多様化し、複雑化していく社会や地域のニーズに、期待を超えた対応をしていくべく、スタッフ一人ひとり、部署ひとつづつが『個』としての個性を発揮しながらも、相互理解と強固なチームワークで取り組んでいく。また、その理念や取り組みを、施設内で完結するのではなく、広く地域や社会に広めていき、発信できる、地域福祉の拠点として活動していく。</p>			
事業計画			
<p>1. 全部門を通して、目標とする利用率(達成率)を成し遂げることで、財政の基盤を安定化する。安定した財政基盤があればこそ、より高い質のサービス提供につながると考える。より質の高いサービス提供は、利用者のみならず、スタッフの確保にもつながり、さらなる高みを目指すための原動力となる。利用者・スタッフともに満足できる事業展開を目指すために、各部署協働し目標達成に取り組んでいく。事業のPR活動。スタッフ個々の、また、チームとしての研鑽関係各機関との連携。どれ一つとして欠けることなく達成することで、地域に、そして社会に求められるサービス展開を行っていく。</p> <p>2. 『人』こそ財産。その意識を高く持ち、利用者はもちろん、スタッフひとりひとりが目標に向かって、自信をもって進んでいけるような環境づくりを行う。また、『利用者様の生活のお手伝いをする』という理念に基づき、介護分野にとどまらず、社会生活における多様な課題に立ち向かっていける人材の育成に努める。『個』の力の集合体が、『チーム』となり、更なる質の向上に取り組んでいけると考える。そのためにも、その個性をいかんなく発揮し得る受け皿となるべく、ソフト・ハードの両面において、環境改善を行っていく。また、これからの社会を支えていくであろう、若者の世代にも福祉活動の体験やオリンピアの理念を実感できる機会を設けていく。社会に求められる施設作りが、より活力のある地域を作り、その活力こそが人材育成の源となるような取り組みを行っていく。</p> <p>3. 社会の動向や情勢を正しくとらえ、その動きに先んじた事業展開ができるよう、情報収集やニーズの把握に努める。介護保険制度もさらに様変わりしようとしている中、その範囲の中だけにとらわれず、広い視野をもって、『今求められていること』『これから必要になるであろうこと』を常に考えながら事業展開していく。そのうえで、新たなチャレンジが必要になってくると思われるが、失敗を恐れず、積極的に取り組んでいく姿勢を忘れないようにする。また、どのような状況にあっても、地域の中で生き活かされている施設であることを肝に銘じ、福祉拠点としての使命を全うしていくための最善の策を講じ、実行していく。</p> <p>上記取り組みを、確実に実現していき、オリンピアの新しい歴史の一步を踏み出していく。</p>			

事業計画

2017年度

施設	オリンピア	部門	特別養護老人ホーム	報告者	落 昌之
事業目標	1. 理念を具体化した、質の高いサービスの提供 2. 安定した財政基盤の確立 3. 地域ニーズに応えられる施設づくり 4. 多種多様な場面に対応できる人材育成				
事業計画					
<p>1. 『パーソンセンタードケア』『ノーマライゼーション』を自身の使命とし、その具体化こそが特養として、一人一人のスタッフ個々としての責任であることを改めて確認していく。そうすることで、サービス全体の質を向上させ、利用者様・ご家族様の期待を上回るサービス展開を行っていく。『感動』を与えられるサービスが、次のニーズを生み出し、それにこたえる活動がさらなる質の向上を成し遂げる。このような良い循環を創造することが、大きな目標である。</p> <p>2. サービスの質の向上のためにも、安定した財政基盤が必要である。16年度は、目標通りの結果が出せなかったため、何が足りなかったのかを把握し、初回利用からリピート利用までつながるサービスを提供する。そのために年間の利用率は102%を目指す。また、介護保険収入だけに依存した財政基盤を、新たな取り組みを展開し脱却していく。3. 地域に生き、活かされる施設として、地域福祉のニーズをより詳細に把握し、それに応え得る事業を展開する。そのために地域ケア会議や地域行事への積極的な参加を行っていく。4. 介護だけではなく、生活支援という観点から、様々な場面において、活躍できる個性豊かな人材の育成を目指す。入居者様は十人十色。人が違えば生活も違う。一人ひとりの利用者様の生活ニーズに合わせた、能力開発を、研修などを通して実践していく。</p>					

社会福祉法人光朔会

事業計画

2017年度

施設	オリンピア	部門	デイサービス	報告者	前埜 久男
事業目標	1.年間利用者数7,710人(30.0人/日)を目指す 2.人員を確保し、質の高いサービス提供に努める 3.関係各機関との連絡を密にし、オリンピアの信頼度を上げる				
事業計画					
<p>1. 年間利用者数7,710人(30.0人/日)を目指す:昨年度の計画より更に0.5人アップの数字を設定。年間を通してコンスタントに高い水準で営業する。利用者様の満足度アップに向けて各種イベントにも力を入れ、新規利用者も積極的に受け入れていく。</p> <p>2. 人員を確保し、質の高いサービス提供に努める:人員を確保することにより、きめ細やかなサービスを展開する。確保方法もこれまでと違う新しい媒体や近隣住民への直接交渉、学校への訪問、地域の民生委員等を通じて呼びかける等、幅広い形で実施する。また、その活動を通じて地域との繋がりを深めていく。また、人員確保が出来れば、これまで出来なかった営業活動にも着手し、新規利用者獲得に動く。</p> <p>3. 関係各機関との連絡を密にし、オリンピアの信頼度を上げる:お一人おひとりとの関係を深め、その周りにおられるご家族様、ケアマネジャーや他職種の方とも連絡を密に持ち、オリンピアへの信頼度や期待感を向上させていく。そこからデイサービスだけでなく、オリンピア他部署のご利用にも繋がる様に働きかけていく。</p>					

社会福祉法人光朔会

事業計画

2017年度

施設	オリンピア	部門	中央居宅	報告者	渡邊 千恵
事業目標	1. 財政基盤の確立 2. 質の高い居宅介護支援 3. 地域、他事業所との連携 4. 介護支援専門員の資質向上 5. 認定調査員の資質向上				
事業計画					
1. 財政基盤の確立:要介護者プラン件数年間970件、要支援件数年間140件を目標とする。新規利用者を獲得する事で収入の増加を図る。					
2. 質の高い居宅介護支援:利用者の自宅訪問を行い、状況把握し、モニタリングを行う。住み慣れた地域で在宅での生活が安全に継続できるように援助し、見守っていく。介護保険外の地域支援サービスも組み入れていく。					
3. 地域、他事業所との連携:あんしんすこやかセンターや他事業所と連携を図り、困難事例も対応できるようにする。また、住み慣れた地域で生活できるように支援していく。					
4. 介護支援専門員の資質向上:研修に参加する事により、情報収集し、利用者の自立支援の観点に立った支援が行えるようにする。					
5. 認定調査員の資質向上:認定調査の研修に参加する。また、調査票を慎重に取り扱う。					

社会福祉法人光朔会

事業計画

2017年度

施設	オリンピア	部門	地域包括	報告者	太田 直樹
事業目標	1. 高齢者やその家族から信頼され安心して相談のできる窓口として認知・評価される。 2. 高齢者と地域をつなげ、安心して住むことのできる地域づくりを支援する。				
事業計画					
1. 積極的な地域行事への参加、各圏域民児協定例会や高齢者対象事業への支援、圏域内各種事業所への訪問と、高齢者や介護に関する資料配付や情報提供を通じて、センターの認知度を広める。					
2. 地域ケア会議を継続開催し、高齢者が住み慣れた地域で、安心して暮らしていくために、地域包括ケアシステムの構築に寄与する。高齢者の居場所づくりや地域の困りごと等の解決方法を話し合うことで、関係者間のネットワークを広げ、地域資源の新規開拓や発掘を支援する。					
今後、増加する認知症の方のケアに関して、認知症サポーター養成講座の開催や認知症サポーター店の新規開拓、徘徊の声掛け訓練の実施等を通じて、地域で認知症理解が進み、ケアの担い手が増えるように支援する。					
3. 民生委員や老人会、婦人会等高齢者に関わる地域の人的資源の新たな発掘、ネットワークづくりを推進する。					
4. これらのことが実施できるように職員の資質向上とコミュニケーション能力向上など、人と人とを結ぶ仲介者としての役割が遂行できる能力や専門知識の習得を、研修受講を通して努める。					
5. 新しい総合事業に関して、事業対象者に対する相談・案内ができるようにする。					

社会福祉法人光朔会

施設	グループホームオリンピア灘	報告者	管理者 上野鋭一郎
事業目標	1. 利用者の生活の質の向上 2. 地域との交流 3. 職員の資質向上「オリンピア灘の理念・3つの約束」の実践 4. 財政基盤の確立		
概要			
<p>オリンピア灘は15年目を迎え、通い・憩いの場としてのデイサービスと生活の場としてのグループホームとが、住み慣れた地域で継続してケアを受けることができるホームとして、地域に根ざす努力を続けていく。利用者ひとりひとりの「その人らしさ」を大切に、理論に基づいたより高い質のケアのために、職員が自発的に自身のレベルアップを目指し、ケアの中で実践できるように取り組んでいく。また、より適切に地域のニーズに応えることができるように、認知症ケアの情報の発信源となり、情報を発信し続けていく。灘区内のオリンピアの高齢者事業・保育事業・障害者事業との協力体制を更に密にして、地域の全ての方々ニーズに応えていくことを目指し、チャレンジし続けていく。</p>			
事業計画			
<p>1. 利用者の生活の質の向上:「生活の主人公」である利用者が、1日1日をその人らしく充実した生活が送れるようお手伝いする。日々の何気ない会話の中から利用者の「したいこと」「できること」を的確に把握し、職員間での情報の共有を図る。また、グループホームに入居していても、夢を諦めるのではなく、新しい事にチャレンジしていただけるように支援を行う。また、グループホームの共用スペースで実施している「共用型のデイサービス」のメリットを活かして、入居者と利用者との関係作りに取り組む。また、入居者・利用者の夢や希望の実現を視野に日々の関わりの中から情報収集を行い、旅行や故郷訪問など「夢のプロジェクト」にもチャレンジし続けていく。</p> <p>2. 地域との交流:日々の散歩や買い物等の外出、地域で行われる行事に参加し、積極的に地域交流する。また、Salon de l'Olympia Nada等のイベントを活用することによって、地域に開かれた、地域に根ざしたホームとしての役割を果たしていけるよう、常に様々な情報を発信し続け、地域のニーズに応えていく。また、高齢者だけではなく、幼児から大人まで様々な方々が気軽に出入りできるホームを目指す。更に、実習生・ボランティア・見学者の受け入れも積極的に行い、地域への啓発活動にも努める。</p> <p>3. 職員の資質向上「オリンピア灘の理念・3つの約束」の実践:職員全員が「オリンピア灘の理念・3つの約束」を理解し、ケアする上での礎とし、日々理念に基づいたケアを実践する。また、オリンピア灘での取り組みやその成果を「新しいケア」として、様々なメディアを通じて外部に発信していく。職員全員がそれぞれのキャリアや希望によって積極的に法人内外の研修に参加し、スキルアップを図ることが出来るように支援する。特に「パーソンセンタードケア勉強会」「若手リーダー育成研修」等認知症ケアを理論の面からも学ぶことによって、より質の高いケアの実践に繋げていく。</p> <p>4. 財政基盤の確立:収入の安定を図り、事業運営を円滑にする。そのために、入居者、利用者の利用率を高めるとともに、体調の変化による入院等のリスクを減らし、安定した利用率をキープする。常に入居者・利用者ひとりひとりの状態を的確に把握し、迅速に対応する。様々な情報に対してアンテナを張り巡らせ、新たな収入源の可能性についても検討していく。</p>			

事業計画

2017年度

施設	オリンピア灘	部門	グループホーム	報告者	上野 鋭一郎
事業目標	1. 入居者が主人公となる生活の場の構築 2. 職員のスキルアップと育成 3. 地域交流の活性化・認知症ケアに関する啓発活動 4. 財政基盤の確立				
事業計画					
<p>1. 入居者が主人公となる生活の場の構築:「生活の主人公は利用者ご本人です」という理念を日々実践し、入居者ひとりひとりの思いや意向をしっかり受け止め、叶えていく。定期的なカンファレンスにより、理念に沿ったケアができていくか振り返り、更なる成長へ繋がっているか評価する。</p> <p>2. 職員のスキルアップと育成:職員は得意な分野ではリーダーシップを取り、不得意なところはチームでフォローし合える環境を作る。共に学び、成長し合うという環境を作り、職員全員が誇りと自信を持って働けるようにする。リーダーは職員ひとりひとりの現在の状態、課題を的確に把握し、チーム全体で課題を解決していく。</p> <p>3. 地域交流の活性化・認知症ケアに関する啓発活動:オリンピアに携わるすべての人々が、希望の光として輝き、地域に出掛け「高齢になっても今まで通り誇りを持って安心して暮らせる生活」ができることを実証していく。また、地域に向けて認知症理解に向けた講演会を行い、各種イベントを通して啓発活動を行っていく。</p> <p>4. 財政基盤の確立:年間稼働率98%を目指す。入居者ひとりひとりの小さな変化に気付き、早期の対応を行い、入院を未然に防ぐ。日頃から支出を見直し、新たな収入源を得るため、新しいことにチャレンジしていく。</p>					

社会福祉法人光朔会

事業計画

2017年度

施設	オリンピア灘	部門	デイサービス	報告者	上野 鋭一郎
事業目標	1. サービスの質の向上 2. 財政基盤の確立				
事業計画					
<p>1. サービスの質の向上:共用型のデイサービスの特徴を最大限に発揮し、お友達の家遊びに行く感覚でご利用いただき、グループホームの入居者の皆様と一緒に、それぞれの趣味や特技を活かして、その人らしく過ごしていただく。そのために、利用者おひとりおひとりのアセスメントをしっかり行い、生活歴を把握し、利用時に活躍していただける場を提供する。入居希望の方にはグループホームの入居者、スタッフとの馴染みの関係、馴染みの環境の中で長期に渡って安心した暮らしを送っていただけるよう、オリンピア灘での生活を体験していただく。</p> <p>2. 財政基盤の確立:年間利用2.0人/日以上を目標とする。登録実人数7名以上をキープできるよう、地域の居宅介護支援事業所、あんしんすこやかセンター等へのPR活動を継続的に行う。その際、全職員は「コーポレート・アイデンティティ」を共有し、職員全員が情報の発信源となる。また利用時間延長、イレギュラー利用を積極的に受け入れ、利用者のニーズに応えていく。</p>					

社会福祉法人光朔会

施設	高齢者総合福祉施設オリンピア兵庫	報告者	館長 山口 幸
事業目標	1. 「小規模多機能ケア」の確立 2. 広報活動の強化 3. 財政基盤の確立 4. 新規プロジェクトへの挑戦 5. 人材の育成		
概要			
<p>福祉を取り巻く状況が激変する中で、2017年度はオリンピア兵庫が今後の方向性を定める重要な年度となる。</p> <p>これまでの取り組みをふり返し、検証し、土台を確固たるものにした上で、新たな一歩を踏み出すことが求められる。</p> <p>そのため、「利用者ひとりひとりの"その人らしい"暮らしのために」という設立の理念にもう一度立ち返り、ケアのあり方、組織のあり方を徹底的に見直していく。スタッフひとりひとりの能力に頼るだけではなく、長期的に効率的、安定的な組織運営ができるように、人材育成およびシステムづくりに注力する。また、積極的な地域交流や地域に開かれたイベントを行うことにより、オリンピアのアクションが人と人とを繋ぎ、地域を動かしていくことができるようにする。固定観念にとらわれることなく、常に新しいことへのチャレンジを続け、日本の福祉をリードする立場であり続けたい。</p>			
事業計画			
<p>1. 「小規模多機能ケア」の確立：利用者おひとりおひとりに対し、馴染みの環境・人間関係の中で、長期に渡って質の高いケアを提供することによって、「その人らしい」暮らしを住み慣れた地域で送ることを可能にすることが、小規模多機能ケアの本質である。オリンピア兵庫は、小規模多機能型施設のパイオニアとして、「小規模多機能ケア」本来のあり方を追究する。具体的には、グループホーム・ショートステイ・デイサービスの連携を強化することにより、複数サービス利用者の増加に繋げるほか、それぞれのユニットがビジョンを持ち、切磋琢磨しながら、より高い質のケアの実践に取り組む。</p> <p>2. 広報活動の強化：「オリンピア兵庫」の認知度を向上させ、各サービス利用者を確保するため、広報・PR活動を強化する。具体的には、新聞・雑誌・テレビ等各種メディアに対して積極的にプレスリリースを発出するほか、地域へのポスティング、戸別訪問を実施する。また、スタッフひとりひとりが積極的に外部の組織に参加し、人的ネットワークを拡げることにより、オリンピアの取り組みをより多くの人に浸透させる。さらに、Salon de l'Olympiaなどのイベント、Cafe Olympiaを活用することによって地域に開かれた施設づくりを行うほか、ボランティアや実習生、見学者などを積極的に受け入れることにより、地域への啓発活動にも努める。</p> <p>3. 財政基盤の確立：安定した施設運営を行うために、財政基盤を確立する。時代状況の変化、制度改正などに際しても安定した収入が確保できるように、徹底的な情報収集と迅速な対応を行うとともに、新たな収入源の可能性についても検討する。また、徹底したコストの見直しを定期的に変更することにより、効率的な運営を目指す。</p> <p>4. 新規プロジェクトへの挑戦：地域の声に常に耳を傾け、いまオリンピア兵庫の力が必要とされているニーズに対して、積極的に新しいプロジェクトを立ち上げていく。プロジェクトメンバーには若手の人材から思い切った登用を行い、将来のステップへの備えとする。</p> <p>5. 人材の育成：オリンピアの目指す新しいケアのあり方に従来のマニュアル的対応は通用しない。自ら考え、判断し、適切な行動を取ることができる人材、そのスタッフを育てる人材が必要である。そこで、スタッフひとりひとりの現在の状態、課題を的確に把握するとともに、それぞれのステップに応じた研修を積極的に実施する。また、仕事の場以外でも自分を磨き成長させることができるようなチャンスを提供する。特に、ユニットリーダー以上のポジションのスタッフには、自分の後継者を複数育成することを課し、継続できる組織づくりを行う。</p>			

事業計画

2017年度

施設	オリンピア兵庫	部門	グループホーム	報告者	西塚 裕真
事業目標	1. ケア理念の遵守 2. 財政基盤の確立を図る 3. スタッフの資質向上				
事業計画					
1. ケア理念の遵守					
・“生活の主人公はご利用者本人”と言うことを常に意識し、パーソンセンタードケアの実践を行う。					
・ご利用者の個別理解に努め、ご本人の力を最大限に発揮していただけるお手伝いをする。					
2. 財政基盤の確立					
・年間稼働率98%を目指す。					
・caféの年間売り上げ250万を目標とする。					
・旅行や新規企画を考え、実地する。					
3. スタッフの資質向上					
・オリンピアのスタッフとしてふさわしい言葉使いをする。					
・外部研修に積極的に参加し、知識、技術の引き出しを増やす。					
・内部研修を充実させ、個々のスタッフのレベルに合った研修を受講する。					

社会福祉法人光朔会

事業計画

2017年度

施設	オリンピア兵庫	部門	ショートステイ	報告者	尾崎 真
事業目標	①ショートステイの役割と今後 ②スタッフの資質向上 ③地域協働				
事業計画					
1. ショートステイの在り方に対して変革を行う一年とする。選ばれるショートステイへ。オリンピアの理念と3つの約束という法人の羅針盤に添いつつ部門として掲げる「温もりのあるショートステイ」をスタッフの共通認識にしケアを実践する。また、ひとつの部門としても十分に機能させながら同法人内の入所関連施設に対するパイプ役として全てのご利用者、介護負担に苦しむご家族の救いになるよう尽力する。2. また従来通りレスパイトケアとしての役割を果たしながらご利用者の新たな一面を引き出し、それがご家族の新たな喜びになるようスタッフの指導を今までとは違うシステムティックな方法を構築することでより明確に且つ指導する側、される側に安定した育成が行えるよう進めていく。ユニットリーダーには内部・外部問わず積極的に研修に参加するよう促す。スタッフには介護だけではなくあらゆる方面の研修に参加させることで知識、教養を身につけひとりの人間として魅力を伸ばしそれを仕事にも活かせる環境を作る。3. 世間が持つ高齢者施設のマイナスイメージを払拭する為にも地域の方々が一緒に楽しめるイベントの企画、実施を行う。足を運んで頂くことで認知症の方が明るく、希望を持って暮らしている場面をみてもらい認知症に対する偏見を少しでもなくす。					

社会福祉法人光朔会

事業計画

2017年度

施設	オリンピック兵庫	部門	デイサービス	報告者	清田 忠弘
事業目標	1. 財政基盤の確立 2. 地域との密着 3. 人材育成の強化 4. 新たな保険外事業への挑戦				
事業計画					
1. 2017年度収入予算の達成へ向けた利用者確保					
区役所が主催する地域ケアネット活動を通じて地域ケア会議のメンバーとして活動を行う					
本体事業を補強するための保険外事業を積極的に受入、実施する					
2. 地域との密着					
地域密着型として運営推進会議等を通じて、地域の介護拠点としての地位を確立する					
3. 人材育成の強化					
法人内外他事業所への派遣研修を通して知識、ケアのさらなる向上を目指す					
研修、実習生の受入を通して、自己研鑽を行う					
4. . 新たな保険外事業への挑戦					
初任者研修、サポーター養成研修等の経験を活かして新たな保険外事業への挑戦を続ける					
人材育成とも連携した形で新たな事業を活かせるものとする					

社会福祉法人光朔会

事業計画

2017年度

施設	オリンピック兵庫	部門	ホームヘルプ	報告者	中村 文香
事業目標	1. 地域で暮らし続けるためのケアの実践 2. 他部門との連携強化 3. ヘルパーの養成 4. 保険外サービスの具体化				
事業計画					
1. 地域で暮らし続けるためのケアの実践：ヘルパーの支援がただの家事労働の延長ではなく、家事援助を通じて生活密着型の支援であり、それによってご利用者はその日常生活を回復し、みずからの生活イメージを取り戻して、自らの生活設計に取り組むことを可能にするようなケアを目指す。					
2. 他部門との連携強化：ヘルパーによる支援は「関係性」の中で展開される。同じ施設内のサービスを使って頂くことで、情報共有もスムーズになり、顔を合わせる機会も増えるため、安心してサービスを受けて頂くことが可能になる。居宅系サービスの3部門が協力し、兵庫全体で総合的なサービス提供を行う事で、ご利用者により安心して、サービスを利用していただく。					
3. ヘルパーの養成：定期的実践レベルでの研修を実施し、現場でのケア・サービスの質の向上をはかる。また、所属するヘルパー一人ひとりの特性を活かし、より専門性の高いケアを提供出来る体制を整える。					
4. 保険外サービスの具体化：新総合事業開始が目前に迫っている。介護報酬に頼らない収入源の確保とともに、"オリンピックにしかできない"ケア・サービスの提供を行っていく。					

社会福祉法人光朔会

施設	オリンピア兵庫	部門	居宅介護支援事業所	報告者	園田 明
事業目標	1. 財政基盤の確立 2. 地域、他事業所との連携強化 3. ケアマネジャーとしての資質向上 4. オリンピアの理念の体現 5. 利用者、家族の尊重				
事業計画					
1. 財政基盤の確立:2017年度の収入予算を達成する。支出にも留意し法人の財政基盤の確立に貢献する。					
2. 地域、他事業所との連携強化:地域住民、ボランティア、商店、公的機関、病院、あんしんすこやかセンター、サービス事業所との顔の見える関係づくりを行い、連携を強化する。利用者が自宅での暮らしを安全に継続していけるように努力する。地域資源の発掘と活用に取り組み、利用者の生活の質を向上できるようにする。					
3. ケアマネジャーとしての資質向上:外部、内部を問わずに研修会、勉強会へ積極的に参加して、ケアマネジャーとしての資質向上に努める。介護保険制度、総合事業の情報も意識して収集を行っていく。					
4. オリンピアの理念の体現:ケアマネジャーとして利用者が生活の主人公であることを常に意識して行動し、その方がその人らしく在宅生活が送れるように支援を行っていく。					
5. 利用者、家族の尊重:利用者、家族の希望する生活が維持できるよう、毎月のアセスメントにより適切なサービスを導入する。利用者一人一人のニーズに合わせ、多(他)職種との連携を図り、柔軟な対応を行う。					

施設	高齢者総合福祉施設オリンピア神戸西	報告者	施設長 西川 晃
事業目標	1. 総合的な福祉活動の展開 2. 財政基盤の確立 3. 光朔会と地域との架け橋を担い、理念に基づいた実践と新たなチャレンジ 4. 小規模多機能ケアの確立 5. 人材育成による資質の向上		
概要	<p>オリンピア神戸西は、開設より8年目を迎える。2017年度は、新たな一步を踏み出す年である。福祉を取り巻く環境が日々様変わりする中で、社会福祉法人光朔会オリンピアの一拠点として、地域に根付き、法人の理念に基づいたノーマライゼーションの実践、「その人らしく」光輝いて暮らすことが出来る社会の実現を目指し、時代のニーズに応じた事業展開・サービス提供にチャレンジしていく。その為にも、柔軟な発想力と大胆な行動力、熱いハートを抱く人材育成に取り組んでいきたい。特に、当法人の理念や取り組みに共感し、他法人より入職してきた職員を新たな戦力として迎え、常に新しいアイデアをアクションに移していき、地域と共に歩み、成長していく。法人と地域の架け橋を担い、新たな福祉のムーブメントを起こせるよう、自分達に課せられたミッションを果たす1年としたい。</p>		
事業計画	<p>1. 総合的な福祉活動の展開：特別養護老人ホームの入所部門、小規模多機能ホームの通所部門、居宅介護支援事業所の在宅部門、LSA事業の神戸市社会福祉協議会から受託している地域支援部門、他にも専門職を地域に派遣し、高齢者料理教室や親子料理教室、地域の自治会との防災訓練や介護相談や健康相談等、高齢者総合福祉施設としての働きを一層充実させ、法人の活動を地域へ積極的に広め、浸透させていく。</p> <p>2. 財政基盤の確立：居宅介護支援での新規利用者・新天地の開拓、特養・多機能の稼働率95%以上の推移を目指し、新規プロジェクトが一日も早く軌道に乗れるよう、財政基盤の安定に繋げる、チャレンジを実践していく。昨年度、人材確保で苦戦した分、その中での学びを糧に、新しい繋がり、ネットワークをフルに生かした活動拠点を広げるアイデアを創意工夫していく。特に、小規模多機能を中心とした、在宅を支援する活動、訪問介護の活動を広げていき、新たな実践を通して、事業収支差額25,000(千円)を目指していく。</p> <p>3. 光朔会と地域との架け橋を担い、理念に基づいた実践と新たなチャレンジ：地域との協働・実践を生かし、法人の取り組みを積極的にPRしていく。そして、地域の方が今まで以上に当施設に気軽に入って来られる仕組みを作り、誰でもが友人の家に遊びに来られるような場所にし、地域の高齢者ケアの拠点となると共に、喫茶が憩いの場となるような地域貢献を担って行きたい。法人との架け橋を生かし、総合的な相談窓口を担う事業も展開し、誰もが安心できる場を提供する新たな環境作りを創造していくことにもチャレンジしていきたい。</p> <p>4. 小規模多機能ケアの確立：利用者おひとりおひとりに対し、馴染みの環境・人間関係の中での在宅生活の継続を支援する。各部門間の連携により、いつまでも「その人らしく」輝ける暮らしを支援していく。四季に応じたイベントや地産地消を実感できる取り組みをする。世代を超えた意見交換の場や小規模を生かしたアクティブな活動、画一的ではない個別的なケアの実践をする。誰もが輝き、希望を見出す取り組みのチャレンジを継続し、その経験の積み重ねにより、ケアを充実、ボトムアップを目指し、地域密着での福祉の啓発活動を展開していく。</p> <p>5. 人材育成による資質の向上：内部研修や外部研修に積極的に参加し、人材の育成を図ると共に、ケアの資質の向上に繋げていく。特に、光朔会オリンピアの総合的な福祉活動、横の繋がりを生かした学びの機会を積極的に取り入れていく年にしていきたい。そして、自分達の枠にとらわれず、勿論、介護屋で終わるのではなく、この目まぐるしい変化を続ける社会状況に対応し、ムーブメントを起こせる、希望と期待の持てるワクワクする人材を育てる。</p>		

事業計画

2017年度

施設	オリンピック神戸西	部門	小規模多機能ホーム	報告者	平山 陽三
事業目標	1. その人らしい暮らしの実現 2. 財政基盤の確立 3. スタッフの確保と資質向上 4. 地域の拠点作り				
事業計画					
<p>1. その人らしい暮らしの実現:2015年度から登録定員が29名に増加した。ノーマライゼーションの理念に則り、一日の利用定員の範囲内で、少しでも多くの方を受け入れ、通い、泊まりのサービスだけでなく、訪問サービスにも力を入れ、利用者に合わせて支援し、自宅での生活の継続に努める。ご本人の要望だけでなく、ご家族の希望も取り入れ、安全安心な暮らしができるよう、スタッフはチーム一丸となって関わっていく。</p> <p>2. 財政基盤の確立:収入目標 79,136千円。登録者数を29名確保し、安定した収入の確保を目指す。各種加算の算定対象となるように、スタッフの確保、継続勤務に繋がる体制作りを行う。</p> <p>3. スタッフの確保と資質向上:スタッフが気持ち良く働けるような環境を整え、定着率を上げる。研修計画に基づき、内部・外部研修を通して、ケアの標準化及びスタッフの資質向上を目指す。リーダーを中心に、スタッフの個々の能力を見出し、スタッフ一人ひとりが活躍できる職場環境作りをしていく。</p> <p>4. 地域の拠点作り:地域の行事にスタッフだけでなく利用者も参加し、繋がりを深めていく。老若男女問わず、多くの地域の方々が訪れることができる拠点を目指し、開かれた相談窓口として地域に貢献していく。</p>					

社会福祉法人光朔会

事業計画

2017年度

施設	オリンピック神戸西	部門	特別養護老人ホーム	報告者	櫻井 敬介
事業目標	1.理念を遵守し、入居者の思いを叶える 2.財政基盤の確立 3.人材育成とスタッフの定着を図る 4.地域共生				
事業計画					
<p>1. 理念を遵守し、入居者の思いを叶える:オリンピックの理念を遵守し入居者の尊厳を守ることで、入居者自身が自己選択・自己決定・自己実現をし「その人らしい」生活を送ることができる入居者主体のケアを行う。また、入居者の思いを実現するお手伝いをするすることで、入居者・スタッフが感動を共有し、いつまでも成長し続けるチームを目指す。</p> <p>2. 財政基盤の確立:年間収入104,281千円、年間利用率98.0%を目標とする。空床発生時にはショート利用して頂き、空室を最小限に抑えられるよう迅速な対応を行う。また、入居申込者の確保にも尽力する。</p> <p>3. 人材育成とスタッフの定着を図る:スタッフ各自がオリンピックの一員としての自覚を持ち、ケアの質の向上を図る為に内部・外部の研修や勉強会の参加、各種資格取得に取り組む。リーダーが中心となりチームとして様々なことに挑戦し、成長することで自分自身に誇りや責任を持ってもらい、スタッフ定着率の向上を目指す。</p> <p>4. 地域共生:地域の一員として、特別養護老人ホームが有する資源やノウハウを地域に還元し、地域の高齢者の相談窓口としてのポジションを確立する。施設と地域、双方向の交流を行うことで「まちづくり」に貢献する。</p>					

社会福祉法人光朔会

施設	オリンピック神戸西	部門	居宅介護支援事業所	報告者	西川 晃
事業目標	1. 地域の高齢者の相談窓口としての役割を担う 2. 地域の在宅支援を他部門と連携して行う 3. 居宅介護支援の資質の向上と人材の育成 4. 財政の安定				
事業計画	<p>1. 地域の高齢者の相談窓口としての役割を担う:介護支援専門員として公平中立な視点に立ち、様々な相談に対して、普段から蓄積された知識と情報で柔軟に対応する。地域の高齢者の相談窓口として、安心してご利用頂けるよう、積極的な情報発信も行う。2. 地域の在宅支援を他部門と連携して行う:地域に開かれた相談窓口として、積極的に地域の諸行事や関係機関に出向き、お困りの方への支援を積極的に行う。圏域の地域包括支援センターをはじめ、保険・医療・福祉の関係機関や民生委員等との関わりを持ち、困難事例に対しても、積極的に関与することで、地域との信頼関係をより深めていくようにする。また、その際に、法人内の横の繋がりを最大に生かしながら、時には架け橋になりつつ、地域と地域の高齢者をフォローしていく。3. 居宅介護支援の資質の向上と人材の育成:法人の理念に基づき、ノーマライゼーションをしっかりと訴えていく。「その人らしい暮らし」を実現すべく、普段からの研修や自己修練に取り組み、資質向上と人材育成に努める。4. 財政の安定:常勤換算2.5名のケアマネジャーの配置で、体制をしっかりと見直ししながら、日々の業務に取り組み、年度の後半には、95%の稼働率で推移し、安定した収入を確保出来るよう、普段から情報共有を行い、業務を充実させていく。</p>				

社会福祉法人光朔会

施設	オリンピック神戸西	部門	LSA	報告者	西川 晃
事業目標	1. シルバーハウジングの相談窓口として、位置付けを確立していく 2. 担当圏域のコミュニティの支援を他の部門と連携しながら積極的に行う 3. 今津高層住宅の自治会との協働 4. 財政の安定				
事業計画	<p>1. シルバーハウジングの相談窓口として位置付けを確立していく:シルバーハウジング入居者への支援、生活相談・安否確認・コミュニティ作りに役立つ支援を積極的に行う。一時的な家事援助、緊急時の対応、介護保険利用時等で関係機関との連携、他に、シルバーハウジング入居者の生活に必要な支援、情報提供を行っている。2. 担当圏域のコミュニティの支援を他の部門と連携しながら積極的に行う:一昨年より集会室を利用したコミュニティ作りの許可を頂き、2ヶ月に1回、学習会や茶話会等、住民間の交流の機会を積極的に設けるようになってきている。非常に好評で、定着しつつある。昨年度は、更にシルバーハウジング入居者の「私の宝物展」と称し、自分史を語る機会や趣味・特技分野を披露する機会として、個展を行った。初めての試みであったが継続依頼の声も頂いている。他の部門に協力して貰いながら、これまでの実施してきたものを組み合わせ、アレンジしつつ、新しいものを創り出していきたい。3. 今津高層住宅の自治会との協働:今まで以上に協力体制を強化し、シルバーハウジング入居者の生活支援していく。4. 財政の安定:法人の理念に基づき「その人らしい暮らし」を神戸市の受託事業であっても積極的に訴え、より充実した支援を行い、財政の安定を図っていく。</p>				

社会福祉法人光朔会

施設	オリンピア呉	部門	居宅介護支援事業所	報告者	西川 晃
事業目標	1. 新天地の開拓、新規事業として地域に入っていく 2. 財政基盤の確立 3. 地域のコミュニティ支援を担う、法人との架け橋になる活動を行う。				
事業計画					
<p>1. 新天地の開拓、新規事業として地域に入っていく:初めての県外進出事業である。昨年度、開設認可をおろし、定期的に現地に足を運び、視察及び地域との繋がり作り、拠点としての事業開設の準備を行ってきた。事務所を借りている呉信愛教会と協力し、建物内の修繕や玄関周りの美化・園芸活動等を行い、繋がりが深まっている。また、新たな展開として、光朔会の活動を支援すべく建物管理のために、教会より常駐者を配置して頂ける話も進んできている。近隣自治会関係者にも、事業説明会を行ったり、地域を如何に支援していくかという展望を話をする機会も継続的にしている。教会の方に協力して頂きながら、更に地域に出て行く機会を増やしていく。</p> <p>2. 財政基盤の確立:初めての他府県での事業展開・事業拡大に向けて現地と如何に繋がり、現地での人材の確保、居宅介護支援事業所の開始と、それを支えるPR活動、広報活動に力を注ぎ、健全運営を目指していく。年度内での最終目標利用者数は、要介護者20名 要支援者8名のケアプラン立案する。3. 地域のコミュニティ支援を担う、法人との架け橋になる活動を行う:地域の高齢化とコミュニティ活動の不足という現状があり、法人との架け橋を担いながら、新しいチャレンジ、文化活動等を通して、地域の活性化の一助を担い、成長する。</p>					

社会福祉法人光朔会

事業計画

2017年度

施設	オリンピア明石	部門	居宅介護支援事業所	報告者	西川 晃
事業目標	1. 地域の高齢者の相談窓口としての位置づけを確立する 2. 地域の在宅支援を他部門と連携して行う 3. 人材の確保と事業所の拡張 4. 財政の安定				
事業計画					
<p>1. 地域の高齢者の相談窓口としての位置づけを確立する:明石市に事業所を立ち上げて、2年目を迎える。地域の諸行事に積極的に参加しながら、地域住民との繋がりを構築し、他の事業所への広報活動も積極的に行っている。今までは、地域に出向いてPRをすることに力を注いできた分、次のステップとして、相談を受けやすいシステム作りをしていき、位置づけを確立していく年にしていきたい。2. 地域の在宅支援を他部門と連携して行う:お困りの方への支援を行う際、圏域の地域包括支援センターをはじめ、保険・医療・福祉の関係機関や民生委員等との関わりを持つとともに、法人内の横の繋がりを生かし、社会福祉法人光朔会の一事業所として、架け橋を担い、フォローアップをしていく。3. 人材の確保と事業所の拡張:ケアマネジャーの人員の補充とともに、2年間地域と繋がりを作ってきた際に、まだまだ独居高齢者の生活支援に必要な部分が多く、社会資源にも不足があり、それらを補える新しいチャレンジと運営を支える事業収入を生み出す取り組みに積極的にチャレンジしていく。4. 財政の安定:常勤換算1.5名のケアマネジャーの配置で、体制を確立していきながら業務内容を充実させ、年度後半には、95%の稼働率で、安定した収入を確保出来るよう、情報収集とチャレンジを徹底し、業務を充実させていく。</p>					

社会福祉法人光朔会

施設	オリンピック都こども園	報告者	園長 三好美佐子
事業目標	1. オリンピアの理念、都こども園の理念理解の徹底 2. 認定こども園教育・保育の充実 3. 地域子育て支援の充実 4. 教育・保育専門職としての資質向上 5. 関係団体との連携		
概要	<p>幼保連携型認定こども園に移行した1年目は、手探り状態ではあったが、保護者のニーズ、子どもたちの興味をくみ取りながら進めることができた。2年目となる2017年度は、子どもたちがしっかりと遊び込む中で育つ教育の芽を大切に育てていきたい。そのためには、子どもたちが安心して自分らしさを発揮できる環境作り、情緒の安定がはかられるような関わりが必要である。今一度、全職員でオリンピックの理念、都こども園の理念を学び直し、常に意識し行動できるよう努めていく。また、年々多様化する子育てニーズに敏感に反応し、地域の子育て支援の拠点としての役割を果たしていくよう努める。</p>		
事業計画	<p>1. オリンピアの理念、都こども園の理念理解の徹底 : 子どもたちが自分らしく輝き生きる力を育む教育・保育とは何か、それを実践するためにはどうすればよいか、イエス・キリストの愛と奉仕の精神をもって行動できているか、全職員で考え行動できるようにしていく。ひとりひとりの子どもが中心にあり、より良い成長を支える良き職員集団として、理解・協力・切磋琢磨できる関係性を大切にする。</p> <p>2. 認定こども園教育・保育の充実 : ひとりひとりの情緒の安定(養護)を基本とし、そこに発達に応じた子どもの興味・関心を満足させる活動(教育)が積み重なっていくようにする。子どもが「やってみたい!」と感じる魅力的な環境作り、活動が発展していくための適切な援助、過程を大切にする行事を計画・実践する。また、都こども園の活動を広く発信し、保護者・地域の方々の理解・協力が得られるようにする。</p> <p>3. 地域子育て支援の充実 : 保育園・小規模保育園・認定こども園等が増え、一時保育利用児は年々減少傾向にある。年間延べ約700人の一時保育利用児を受け入れる実績をもとに、今年度も就労・緊急・子育て不安などさまざまなケースに迅速に対応していく。また、未就園児に向けたプログラムは地域子育て世帯に定着し、大変好評を得ている。母親講座の充実をはかり、すべての子どもに開かれたこども園として、利用に結び付くような活動を展開していく。</p> <p>4. 教育・保育専門職としての資質向上 : 幼保連携型認定こども園教育・保育要領、キリスト教保育指針の読み込みをおこない、子どもの生命の保持及び情緒の安定を図るためのいねいな援助やかかわりである「養護」と、子どもが健やかに成長し、その活動がより豊かに展開されるための発達の援助である「教育」の理解を深めて子どもに向き合っていく。</p> <p>5. 関係団体との連携 : 聖公会保育連盟、キリスト教保育連盟、神戸市私立保育園連盟等の研修や事業に積極的に参加、参画する。養成校との連携を深め、積極的に実習生の受け入れ、指導をおこなう。次世代育成プログラムとして地域中学校・高校のトライやるウィーク、ワークキャンプ、ボランティアを受け入れる。また、子どもの成長の連続性を確保するため、小学校との接続、スタートカリキュラムを実践する。そして、地域にある園として、地域の皆さまのご理解ご協力に感謝し、地域行事への参加、園行事へのお誘い、職員による地域清掃活動を引き続きおこなう。</p>		

施設	オリンピック神戸北保育園	報告者	園長 中久木 康弘
事業目標	1. 健全財政の安定化 2. スタッフ研修の充実 3. 子育て支援施設としての機能の充実 4. キリスト教保育に則り一人ひとりを大切にする保育のさらなる充実		
概要			
<p>法人基本方針「イエス・キリストによって示された愛を、すべての人々とともに分かち合い、神の栄光をあらわすために、誰もが夢や希望に満ちあふれ、その人らしく光り輝いて暮らすことができる社会を実現する。」というに則り、神様によって創造されたかけがいのない存在として一人ひとりの子どもを受け容れます。</p> <p>「今日一日を精一杯生き、心から楽しむ」ことのでき、こどもたちが、家庭的な雰囲気の中で、安心して生活ができるように、担当制保育を行い、日々の生活の中で、こどもたちが、自分で主体的に選択、判断し、責任をもって遊ぶことができる環境を提供します。公益法人として、地域における子育て支援のため、子育て中の保護者へのサポートをより充実させ、社会的役割を果たす。</p>			
事業計画			
<p>1. 健全財政の安定化</p> <p>2015年度・2016年度と健全財政の構築と目標を掲げ、結果両年度ともに予算を上回る収支差を出すことができた。2年間で蓄積した予算管理基礎データを基本として、3年目となる本年度は2年間のデータに基づき財政の安定化を図ることを目標とする。</p> <p>2. スタッフ研修の充実</p> <p>キリスト教保育実践者として、聖書からの学びを充実させる。</p> <p>職員一人ひとりの課題に応じた研修計画に則った研修の実施。さらに今後創設されるキャリアアップ研修を見据えた研修も検討する。</p> <p>3. 子育て支援施設としての機能の充実</p> <p>家庭や地域社会と連携を図り、保護者の協力の下に家庭養育の補完を行い、子どもが健康かつ安全で情緒の安定した生活ができる環境を用意し、健全な心身の発達を図る。子育て支援事業の本年度の反省を踏まえ内容をより充実させる。また、地域自治会等との関係を密にし、地域に根ざした福祉施設としての働きを進める。</p> <p>4. キリスト教保育に則り一人ひとりを大切にする保育のさらなる充実</p> <p>子どもが安心して過ごせるように、「流れる日課」と担当制を充実させ、一人ひとりの子どもの行為や生活全体がスムーズに流れ、不必要に待つ時間や中断されることのない日課の作成。日課を一斉に行うとなく、子ども一人ひとりの生体リズムや生活リズムを考慮し、一人ひとりに合わせ担当グループを作り、それをクラス全体の日課に取り込み、それぞれが円滑な連携を図り進める。</p>			

施設	都児童館	報告者	館長 森下洋子
事業目標	1. 児童の健全育成 2. 子育てと家庭の支援 3. 放課後児童の健全育成(放課後児童クラブ) 4. 地域への貢献 5. 職員の資質の向上		
概要	<p>オリンピアの理念を軸として利用者ひとりひとりの居場所となる場の提供をし、児童館の担う役割をしっかりと果たしていく。親子プログラムを通して、母親の居場所づくりと仲間づくりの拠点となるよう配慮し、継続利用につながるようにする。放課後児童クラブにおいては、児童館と六甲学童保育コーナーそれぞれの環境的特性を活かしていく。また、児童館においては高学年受け入れと19時延長を実施し、保護者の就労環境の一助となるようにする。更に一般来館児童と放課後児童クラブの児童の交流を図るべく、月行事のプログラムの充実を図る。そして、保護者との信頼関係がより強固なものとなるよう努力する。コミュニティ事業を通して地域との連携を大切にしてい。職員全体の意識向上を図り、揺るぎのない運営ができるように努力していく。</p>		
事業計画	<p>1. 児童の健全育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊びや行事を通して異年齢児や地域の方との交流を図り、その中で集団モラルを学べるように支援する。 ・安全を第一に、子どもたちの居場所づくりとして、積極的に職員が遊びに関わり個別的・集団的に支援していく。 また、「生きる力」が育つようにひとりひとりを尊重した見守りをしていく。 ・親子での参加行事や、地域の方との交流行事、季節行事、月行事など内容の充実を図り、楽しさを提供する。 <p>2. 子育てと家庭の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援、母親の居場所づくり、仲間づくりの拠点となるように下記の事業を実施する。 *すこやかクラブ*キッズクラブ*つどいのひろば(赤ちゃんタイム・一歳児タイム・ママのリフレッシュタイム 子育てママのティータイム)*子育て母親対象講座*親と子のふれあい講座*子育てコミュニティ育成事業 <p>3. 放課後児童の健全育成(放課後児童クラブ:学童)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭的な雰囲気の中で集団生活の規律を守り、ひとりひとりが協力・寛容・自立ということを理解できるよう支援し、児童の健全な育成を図る。 ・お誕生日会やお楽しみ会、児童館行事等への参加を通して、子どもの心と体の健康を図る。 ・長時間学童で過ごす子どもたちの心のよりどころとなる支援とともに保護者が安心できるように配慮していく。 <p>4. 地域への貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方が足を運びやすい場の提供に努めると共に、子育て支援、家庭支援につながる地域社会を目指し、異世代間で楽しめるプログラムを年間を通して実施する。(自然を楽しむ会・旬を楽しむプログラム等) <p>5. 職員の資質の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・光朔会オリンピアの一員であることの誇りをもち、児童館職員であるという自覚と責任をもって行動する。 ・オリンピアの理念に則り、利用者ひとりひとりに対して個を尊重した対応をしていく。 ・職員ひとりひとりのもてる力を最大限に発揮することで、職員の自信につながるよう配慮し、更なる成長を図る。 また、職員同士の共通理解を図ると共に、ともに成長しようという環境づくりに努める。 ・指導員研修や合同行事から学んだことを活かしていく。活動の振り返りを積極的に行い、次に繋がるようにする。 		

施設	障害者就労支援センター・発達障害者サポートセンター	報告者	センター長 大地あけみ
事業目標	1. 新スタッフ体制の構築 2. 利用者支援の向上 3. 作業を含めた日中活動のあり方 4. 地域でのネットワーク構築		
概要			
新たなスタートとして、これまでの作業を中心とした支援から生活面や芸術面などの幅広い支援を取り入れていく。利用者ひとりひとりの支援を手厚くすることにより、利用状況や新規契約に反映され安定した運営に繋げる。すべてのスタッフが利用者の支援内容を共有、把握ができるよう随時ケース会議を開いていく。 法人内の各事業所と連携をとり、清掃支援などを通して利用者の特性を活かした就労支援を行う。			
事業計画			
1. 職員の異動等で再スタートを切るにあたり、利用者スタッフとの関わりを一新して構築していく。 また、スタッフ間のコミュニケーションも常勤、非常勤の垣根を越えてお互いが意見し共に成長できる環境を築く。月1回職員、パートを含む全体会議を開くことにより、施設全体の団結力を高める。日報を通して、すべての職員が記録、過去の記録の閲覧を即座にできるようする。以上のことにより、利用者への対応を統一かつ円滑に行う。 2. すべての利用者のアセスメントシート、支援計画を作成し、ご家族の方と共有する。また、職員の能力の向上のため、外部研修などに参加した場合、事業所内で伝達研修を行う。職員の技術や知識を深めることにより、質の高い支援を行う。施設環境面においては、相談室・静養室を作業場所と明確に区分けし、仕事にメリハリをつけることにより利用者の能力に応じたレベルアップを図ることができる。利用者によっては、就労を目的としない方、居場所に近い利用をしている方もいる。作業以外の可能性を引き出せるようなプログラムを考案していく。絵画やイラスト、習字など文化・芸術活動の取り入れを行う。 3. 作業中は作業に集中できるよう環境を整える。これまでレクリエーション活動が少なかったため利用者が希望する楽しみを取り入れ仲間意識を高めていく。施設外就労(清掃・農作業)を積極的に言い社会性を養い、新しいことにも挑戦しようとする意欲を持たせる。 4. 地域活動として、各事業所を拠点とした地域清掃を行う。地域住民の方にオリンピアを知ってもらい、障害者理解促進につなげる。プランターなどで花を育て華やかさや美しさをもって立ち止まってもらえるような雰囲気を作る。地域の方がボランティアとして参加できるような行事を考え、積極的に施設開放を行う。			

事業計画

2017年度

施設	オリンピア岩屋	部門	就労継続支援B型	報告者	大地 あけみ
事業目標	1. 事業所の新スタッフ体制の構築 2. 利用者支援の向上 3. 作業を含めた日中活動のあり方 4. 地域でのネットワーク作り				
事業計画					
<p>1. 事業所の新スタッフ体制の構築: 職員の異動等で新体制でスタートを切るにあたり、利用者スタッフとの関わりを新たに構築する。また、スタッフ間のコミュニケーションも常勤、非常勤の垣根を越えて意見交換し、共に成長できる環境を築き、団結力を固め、事業所全体の力を高める。</p> <p>2. 利用者支援の向上: すべての利用者のアセスメントシート、支援計画を作成し、ご家族の方と共有する。また、スタッフの能力向上のため、外部研修への積極的な参加を促す。</p> <p>3. 作業を含めた日中活動のあり方: 作業中はできる限り私語を慎み作業に集中できるような環境を整える。相談室(静養室)などを明確に作業場所と区分けすることで、利用者の意識のメリハリをつける。施設外就労(清掃・農作業)も積極的に取り入れ社会性を養い、新しいことにも挑戦しようとする意欲を持たせる。</p> <p>4. 地域でのネットワーク作り: 地域活動を積極的に行い、地域住民の方にオリンピアを再認識してもらい、障がい者の理解を深めてもらうように活動を行う。地域の方がボランティアとして参加できるような行事(餅つき・ハロウィン等)も積極的に行い地域開放をよりいっそう進めていく。</p>					

社会福祉法人光朔会

事業計画

2017年度

施設	オリンピア住吉	部門	就労継続支援B型	報告者	尾上 忠志
事業目標	1. スタッフ間の連携強化 2. 利用者支援の向上 3. 法人内連携による作業強化 4. 地域でのネットワーク作り				
事業計画					
<p>1. スタッフ間の連携強化: 職員の異動等で岩屋同様、新体制でスタートを切るにあたり、岩屋、住吉という距離のハンデを月1回、スタッフ全員参加の会議を開催することで埋めていき、団結力を高める。</p> <p>2. 利用者支援の向上: すべての利用者のアセスメントシート、支援計画を作成し、ご家族の方と共有する。スタッフを外部研修などに積極的に参加することで、職員の技術や知識を深め、質の高い支援を行う。また、すべてのスタッフが利用者の支援に対し共有、把握ができるよう随時ケース会議を開くようにする。</p> <p>3. 法人内連携による作業強化: 法人内の各事業所と連携をとり、清掃支援、物販等を行い、利用者の特性を生かした就労支援につなげる。結果として、社会性を養い、新しいことにも挑戦しようとする意欲を持たせる。</p> <p>4. 地域でのネットワーク作り: 挨拶が大切なコミュニケーションツールであることを説明し徹底するよう指導する。事業所を拠点とした地域清掃を行い、地域住民の方にオリンピアを知ってもらい、障がい者の理解を深めてもらう。道路に面してプランターなどで花を育て華やかさや美しさをもって立ち止まってもらえるような雰囲気を作る。</p>					

社会福祉法人光朔会

施設	サービス付き高齢者向け住宅オリンピア鶴甲	報告者	太西 裕二
事業目標	1. オリンピアの理念を活かしたサービス提供 2. 財政基盤の確立 3. 地域交流、イベント開催 4. 安全で安心できる住宅環境を目指す		
概要			
<p>サービス付き高齢者向け住宅の入居要件は法令で定められている60歳以上の高齢者となっており、オリンピア鶴甲はこの要件のみであり要介護認定の非該当の方から要介護・認知機能の低下がある方がご利用頂き、これまで様々な理由で自宅での生活において不安をかかえて生活を送ってこられた方々に対して、生活の質はこれまで通りのライフスタイルを続けて頂き、不安のある部分に対しては24時間の見守りや状況把握、生活支援のサービス及び食事や家事等の支援によりその人らしい生活を送って頂く。外出同行等のサービス等で、豊かな時間と安心した暮らしを提供します。また、通所介護・訪問介護・居宅介護支援事業所を併設しており、オリンピアで培った室の高いサービスを行います。</p>			
事業計画			
<p>1. オリンピアの理念を活かしたサービス提供:これまで自宅で送っておられた生活と変わらない日常を継続して頂けるようにご利用者お一人おひとりの生活状況を把握し、これまで不安があった部分については様々なサービスを提供していき、ご利用者の皆様に寄り添い「その人らしい。」暮らしを応援します。ご利用者の皆様に「ここを選んでよかった。」と思っけて頂けるよう安心して生活できる環境を提供します。</p> <p>2. 財政基盤の確立:利用者の皆様に「これまでの生活を続けていき、安心して生活を送りたい。」と言うご希望に応えるためには、活動の基となる財政基盤を安定させる事が不可欠です、20室を常に満室の状態を維持していく必要があり、利用者の生活状況を常に把握する事で、退去等に備え、急な退去者があった場合でも速やかに新しい方が入居できるよう入居希望の待機者の獲得に努めて行きます。六甲修道院の事業も昨年11月から開始しており、住宅部分の収益の増加を図って行きます。支出の状況も的確に把握していき、収入と支出のバランスを取って行く事で、コストを意識し収益の確保を図って行きます。</p> <p>3. 地域交流、イベント開催:地域の各団体やあんしんすこやかセンター等との連携や交流によりオリンピア鶴甲の周知をよりいっそう図り、鶴甲地域での福祉の拠点となるように努めて行く。各種講演会等も開催していき、地域の方々へ様々な情報を発信することで、入居希望の待機者やデイサービス、ヘルパーステーションの利用者獲得に努めます。</p> <p>4. 安心して生活できる住宅環境を目指す:今年度で開所後3年が経過していますが、設備関係に大きな不具合は見受けられません。入居者の方が安心して快適な生活環境で過ごして頂くために、日常の清掃は基より、定期清掃・点検にも細心の注意を図る必要があり事業者により定期点検や季節毎の清掃業務を行い、常に綺麗な環境作りを目指しています。また、安全への配慮・対策として平素から火災発生の防止に万全を期し、防災関係の設備・機器の整備点検を十分に行い、年2回の消防・防災訓練実施し、消防署、地域の方々の協力を得て、利用者の安全対策に努めます。これからも地域との関わりを持ち、非常災害時に於いても最大限に利用者の安全を確保すると共に、地域の防災拠点としての役割を担って行きたい。</p>			

事業計画

2017年度

施設	オリンピック鶴甲	部門	サ高住	報告者	橋本 伸也
事業目標	1. オリンピアの理念を活かしたサービス提供 2. 安全で安心して生活できる住宅環境づくり 3. 収支のバランスがとれた財政運営				
事業計画					
1. オリンピアの理念を活かしたサービス提供 : これまで自宅で送って来られた生活と変わらない暮らしをして頂ける様に個々の入居者の方に寄り添ったサービスを提供し、「その人らしい暮らし」を応援します。					
2. 安全で安心して生活できる住宅環境づくり : オリンピア鶴甲がオープンして3年を迎えます。現在のところ住宅設備関係に大規模な修繕が必要な所は見受けられませんが、入居者の方が安心して快適な生活をして頂くには、日常の清掃は基より定期点検にも細心の注意を配る必要があります。また、安全への配慮・対策として平素から火災発生防止に万全を期し、非常災害時においても最大限に入居者の方々の安全を図るとともに、地域の防災拠点としての役割を担っていきます。					
3. 収支のバランスがとれた財政運営 : 収入面では入居者の方の家賃・食費が大きな要素であるため、常に満室の状態を維持するために入居待機者獲得の継続を行っていきます。また、家賃・食費の収入だけに頼らず、安定した収入を確保できる新たな収入源を検討し、支出面に関しては、コストの見直しを図り、収支のバランスがとれた財政運営を目指します。					

社会福祉法人光朔会

事業計画

2017年度

施設	オリンピック鶴甲	部門	ホームヘルプ	報告者	下地 正樹
事業目標	1. ホームヘルプ ケアの確立。2. 人財育成。 3. 財政基盤の確立4. , 広報活動の強化。				
事業計画					
1, ホームヘルプケアの確立:利用者様お一人お一人が尊厳有るこれまで通りの生活を送るお手伝いを利用者様目線で、その人らしい暮らしを続ける事が出来るよう ホームヘルプケアの充実に取り組む。 鶴甲に頼めばその人らしく暮らせて、安心・安全という、声が広がるように取り組む。					
2, 人財育成:ヘルパーの スキル・知識を向上し 利用者様のご要望に応え その人らしい暮らしを続けるお手伝いが出来るようにし、チームケアの充実を計る。問題が出たら、その場で判断出来る人財の育成。 ヘルパー部門の課題としての 問題解決を心がけ 各ヘルパーのみで抱え込まないようにする。					
3, 財政基盤の確立:特定の利用者様に集中したケアから、より多くの利用者様へのケアをする事で、大きな変動の 無い基礎を築き 財政基盤の安定化を行います。					
4, 広報活動:灘区・東灘区を中心とした、居宅介護支援事業所への 営業を行いホームヘルプ・サービス付高齢者向け住宅・ディサービスセンターの PRを強化し いつでも対応できる工夫をする。 オリンピックのファンが、増加するような活動をPRしより多くの共感を得るようにする。					

社会福祉法人光朔会

施設	オリンピア鶴甲	部門	デイサービス	報告者	富原 実治
事業目標	1. 財政基盤の確立 2. サービスの質の向上 3. 人材の確保・育成				
事業計画					
1. 財政基盤の確立					
利用者数を上限数にすることを目標として、あんしんすこやかセンターや居宅介護支援事業所の訪問を続け、新規利用者獲得に繋げる。好評である音楽療法を継続し、なおかつ定期的にイベントを行う等、少しでも多くのアピール方法を思案し実行することで収益を上げていく。					
2. サービスの質の向上					
スタッフひとりひとりがオリンピアの理念をしっかりと理解及び把握をして、それに基づき利用者様のニーズにお応えできる体制を常に整えておくよう努力する。小規模の特性を活かし個別対応を意識し実施する。					
3. 人材の確保・育成					
利用者様の思いをいつでも受け入れられる体制をとり、利用者様が望まれるであろうことをスタッフ全員が進んで行えるような質の高いサービスを提供できる人材育成を図り、基盤をしっかりと整える。					

社会福祉法人光朔会

施設	オリンピア鶴甲	部門	居宅介護支援事業所	報告者	太西 裕二
事業目標	1. 財政基盤の確立 2. 介護支援専門員としての資質の向上 3. 地域交流、他事業所との連携 4. 介護予防ケアマネジメントを行う				
事業計画					
1. 財政基盤の確立: あんしんすこやかセンターや病院及び介護関係の事業所との連携を強化し新規利用者の獲得を行って行く。担当している利用者の生活を豊にしていき安定した生活を送って頂く事で安定した収入を確保していくと共に、新規利用者の獲得を行い財政基盤の確立を図っていく。					
2. 介護支援専門員としての資質の向上: オリンピアの理念を実践し、利用者の方が住み慣れた地域で安心して過ごして頂けるよう、介護支援専門員としての知識や技術を積極的に研修等に参加しスキルアップを図っていく。					
3. 地域交流、他事業者との連携: 圏域のあんしんすこやかセンター連絡会や灘区のえがおの窓口連絡会に参加し、灘区内の地域資源や情報を収集していく事により、利用者の生活の質の向上に繋げていく。地域の関係者が集う地域ケア会議等へ積極的に参加し、オリンピアの広報活動を行って行く。					
4. 介護予防マネジメントを行う: あんしんすこやかセンターから委託を受けて、灘区等への方へ介護予防マネジメントの提供を行う。総合支援事業の開始に伴い、制度を理解していく。					

社会福祉法人光朔会

施設	グループホーム オリンピア篠原	報告者	管理者 長谷 順二
事業目標	1. 「認知症ケアの確立」 2. 地域密着の浸透 3. 財政基盤の確立 4. 新規プロジェクトへの挑戦 5. 人材の育成		
概要			
<p>オリンピア篠原が開設してから3年目となる本年は、これまで成長してきた「認知症ケア」の拠点として、地域密着を力強く推進する1年となる。地域行事への参加、継続的な社会資源との関わりを経て、地域との関係は強まっている。グループホームとして、地域の認知症でお困りの方々を支援すべく、相談の窓口としての機能強化を進めていく。新しいチャレンジを続けるために、安定した収入確保、人材の雇用、育成が必要となってくる。介護保険制度を取り巻く環境は今後一層厳しくなっていく見込みだが、オリンピア篠原が地域社会から必要とされる存在であり続けることで、ノーマライゼーションを実現していく拠点となる。スタッフの自発的な研修参加だけでなく、必要とされる研修を全てのスタッフが受講していくことで、活躍していくための基礎としていく。</p>			
事業計画			
<p>1. 「認知症ケア」の確立: パーソンセンタードケアを基本とした、根拠のあるケアを実践していく。日々の学びに終わらず、認知症ケアの研修や勉強会をオリンピア篠原で開催する。スタッフひとりひとりが認知症ケアを実践していくと同時に、ケアを指導していくことができるスタッフを育成することを目標としていく。そのために、今一度オリンピアの理念を学び、ノーマライゼーションの実現という目標を見据えた認知症ケア、個別ケアを理解、実践していくことで、地域の認知症ケアの拠点となる。</p> <p>2. 地域密着の浸透: 地域行事へ継続的に参加している。また、地域住民からの入居相談から実際に入居されるケースも出てきた。引き続き、地域での高齢者介護の窓口、認知症ケアの窓口となっていく。また、オリンピア篠原、更には光朔会の存在を多くの方に知っていただくために、地域の居宅介護支援室などの社会資源となる場所に定期的に広報を兼ねて訪問する。町内会などとの結びつきを強くいき、ご入居者が地域をきっかけとした幅広い活動に出ている関係性を作る。</p> <p>3. 財政基盤の確立: 新年度の介護保険制度改定に対応していくことが必要であるが、安定した収入確保と適正な支出を運営することが重要であることは変わらない。入退院による利用の空白は、年度のどこかで起きることを前提に、1年トータルでの利用率の維持を確保する。また、空白期間を最小限にするため、有効な入居待機者を確保する広報活動、待機者への状況確認を兼ねた待機中の支援を行う。収入確保と同時に、支出に対して人件費などの積極的な支出を除き、無駄を無くす取り組みを行いたい。</p> <p>4. 新規プロジェクトへの挑戦: 2016年度は保険外事業として、ご入居者、ご家族の旅行を支援することができた。ご希望を実現することができるだけの体制が整ってきており、これまで通りの生活をお手伝いする理念に添った取り組みを数多く広げていく。安定した施設運営を行うため、目的をしっかりと持った保険外事業を行うことで、ご入居者の満足度向上、収入の安定へと繋げていく。</p> <p>5. 人材の育成: 開設から3年目を迎えることで、新人から始まった職員が中堅職員へと成長をしてきている。今後更なる成長をしていくためには、中核となっていく職員の育成が必須である。資格習得、研修の受講を法人内外で進めていくとともに、オリンピア篠原で研修の年間計画を立て、全スタッフの底上げを促し、次の責任者となっていける人材の育成を念頭に置いて、一歩二歩先に進んでいくための成長をしていく。</p>			

施設	オリンピア篠原	部門	グループホーム	報告者	長谷 順二
事業目標	1. 認知症ケアの確立 2. 地域密着の浸透 3. 財政基盤の確立 4. 人材の育成				
事業計画	<p>1. 認知症ケアの確立:ご入居者お一人ごとの生活背景や人生史、アセスメントから得た情報を元に、パーソンセンタードケアを基本とした個別のケアをさせていただく。グループホームとして、オリンピアの理念として、ご入居者が主役である生活の場を確立する。基本に立ち返り、3つの約束を遵守し、これまで通りの生活を実現する。</p> <p>2. 地域密着の浸透:自治会、民生委員などの地域住民、福祉センターやあんしんすこやかセンターなどの社会資源と築いてきた関係を元に、ご入居者が地域行事や生活として出ていけること。オリンピア篠原から、認知症や福祉でお困りの方への支援をしていく拠点となることの2点を中心に、地域への関わりを進めていく。</p> <p>3. 財政基盤の確立:グループホームの特性を注視し、年間での利用率を安定させることを第一とする。早期の入退所へと繋げることで、各月の利用率低下を最小限のものとし、年間で目標値を維持できるように努める。人件費などの積極的な支出を除き、無駄な支出を極力抑えていき、収支差での向上を目指す。</p> <p>4. 人材の育成:一定の人員を揃えることで、スタッフ個々の負担を減らすとともに、今後中核になっていく職員の育成が必須であり、法人内外の研修、オリンピア篠原内の研修を計画立てて推進していく。</p>				